

PCAN-Router FD

CAN FD / CAN 用ユニバーサル プログラマブル コンバータ

PCAN-Router FD は2つの CAN FD/ CANバスを接続します。ARM Cortex M4Fマイクロコントローラにより、モジュールの動作や双方のCAN FD/CANチャンネル間のデータの送信は自由にプログラム可能です。特にモジュールはCANからCAN FDへ、または反対にCAN FDからCANに変換することが可能です。これによりCAN 2.0ネットワークにCAN FDのアプリケーションを展開することが容易になります。

プログラミング・ライブラリやC/C++のGNUコンパイラを使用することでファームウェアが作られCAN経由でモジュールに転送します。

モジュールはアルミケースに実装され、2つのD-Subコネクタのタイプかネジ止め端子台のタイプが準備されています。

仕様

- NXP LPC4078 マイクロコントローラ (ARM Cortex M4 FPU付き, 120MHz)
- 4 kバイト EEPROM
- 8 Mバイト SPIフラッシュ
- High-speed CAN 2チャンネル (ISO 11898-2)
 - CAN 2.0 A/B および FD準拠
 - CAN FDは ISO / Non-ISO をサポート
 - CAN FD データフィールド (最大64 バイト) のビットレート: 最大 12 Mbit/s 最小 40 kbit/s
 - CAN ビットレート: 最大 1 Mbit/s 最小 40 kbit/s
 - NXP TJA1043T CANトランシーバ
- 2個の2色LEDによるステータス表示
- 2つのD-Sub 9ピンコネクタまたは10極 端子台 (Phoenixタイプ) で接続
- シリアル・データ転送のためのRS-232コネクタ
- I/O-接続:
 - 1つのデジタル入力 (low-active)
 - 1つのデジタル出力 (ローサイド・スイッチ、最大 600 mA)
- RS-232に替わる2個のデジタル入力(low-active)
- アルミケース、DINレール固定オプションを追加可能
- 電源電圧 8 ~ 30 V
- 動作温度: -40℃ ~ +85℃
- CANインターフェイス経由でファームウェアの書き換え



品名・仕様	型番
PCAN-Router FD with D-Sub connectors	IPEH-002214
PCAN-Router FD with Phoenix connector	IPEH-002215

納品内容

- アルミ・ケースのPCAN-Router FD
- IPEH-002215: 対応コネクタ (Phoenixタイプ)
- Windows® 開発用ソフトウェア (GCC ARM Embedded付 toolchain、フラッシュ・プログラム)
- プログラム例付きライブラリ
- マニュアル (PDFファイル)

必要事項

ファームウェアの書き換えにはPEAKのCANインターフェイスが必要です

この文書に記載されている内容は予告なく変更されることがあります。

2021年03月